

かいほジャーナル

Japan Coast Guard Journal
[海上保安庁情報誌]



【特集①】第十管区海上保安本部

50年の歩み、 そしてこれから



【特集②】
「BRAVE HEARTS 海猿」
主演：伊藤英明さんインタビュー



©2012 F/R/P/T/S/A/FNS

51

2012 Summer

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

特集

第十管区海上保安本部 50年の歩み、そしてこれから

特集①
4

BRAVE HEARTS 海猿 主演 伊藤英明さんインタビュー

特集②
10

定期連載

グラビア▼

世界で唯一の航路標識測定船 最後の一般公開

1

海賊対処に備え護送訓練を実施

1

東日本大震災から1年、各地で追悼
行方不明者捜索は継続

2

北太平洋海上保安フォーラム専門家会合

2

来島海峡の潮流信号所、電光表示方式に統一!
～中渡島潮流信号所103年の歴史に幕～

3

海上保安大学校、海上保安学校入学式

3



ニュースフラッシュ▼

NEWS FLASH

12

インフォメーション▼

INFORMATION

大切な命!自分で守る～海上保安庁からのお願い～
海上保安大学校・海上保安学校採用試験

裏表紙



世界で唯一の航路標識測定船 最後の一般公開



2月11日、第八管区海上保安本部（京都府舞鶴市）では、航路標識測定船「つしま」の一般公開を行いました。
連日の記録的な大雪で開催が危ぶまれたものの、当日は天候に恵まれ、多くの方に見学していただきました。
世界で唯一の航路標識の測定を固有任務とする「つしま」は今年3月に解役となり、これが最後の一般公開となりました。



海賊対処に備え護送訓練を実施



2月24日から28日の間、海賊護送訓練実施のため、羽田航空基地所属ガルフVをジブチに派遣しました。
これに併せ、海上保安庁警備救難部長がジブチを訪問し、第

十一次ソマリア周辺海域派遣捜査隊を激励したほか、ジブチ沿岸警備隊をはじめ関係機関への表敬訪問及び意見交換を行いました。



東日本大震災から1年、各地で追悼 行方不明者搜索は継続

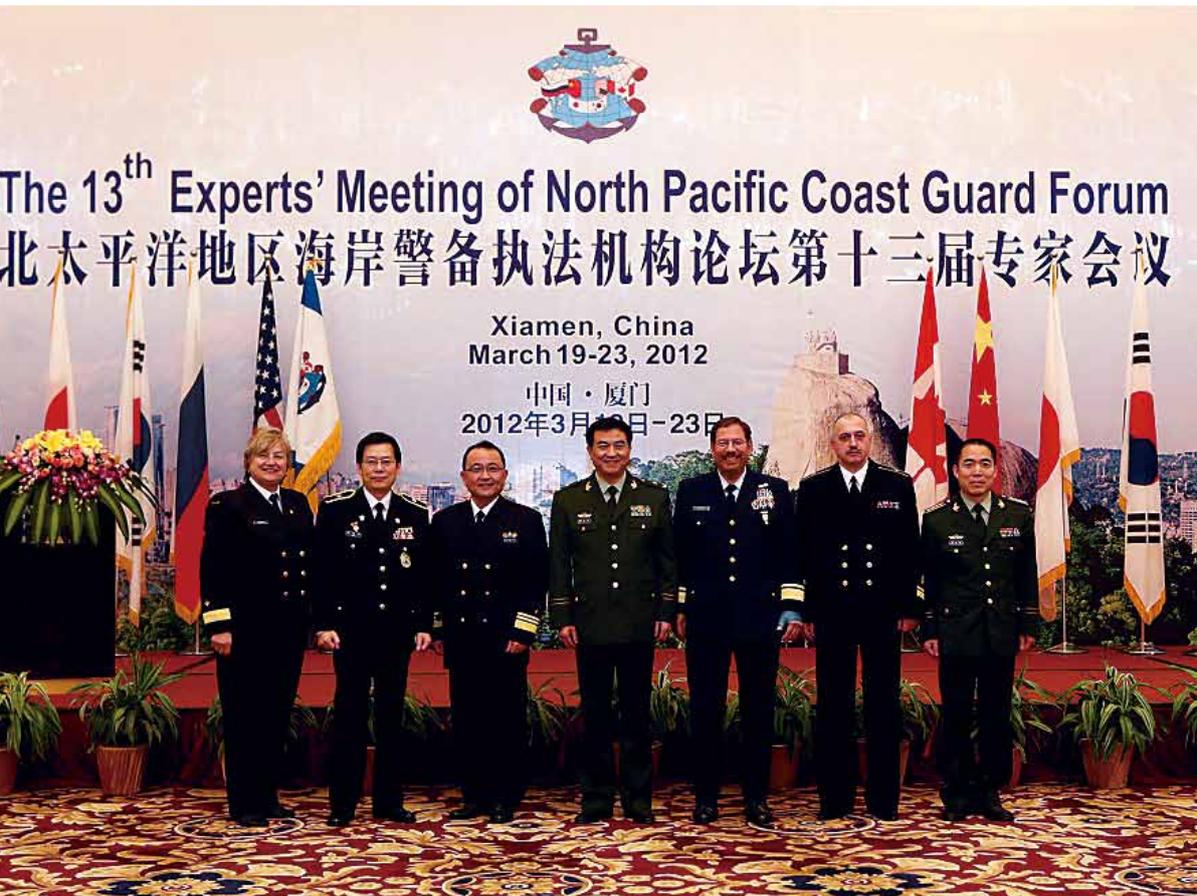


平成24年3月11日、東日本大震災から1年を迎えたこの日、全国各地から被災地に向けて追悼の祈りがおくられました。海上保安庁でも被災地で犠牲となった方々へのご冥福と、被災地の復興と平和を祈念して職

員による黙祷が行われました。発生から1年が経過した現在でも未だ多くの方が行方不明となっていますので、海上保安庁では今後も海上での搜索活動を続けてまいります。



北太平洋海上保安フォーラム専門家会合



3月19日から22日、中国（アモイ）において、日、米、中、韓、加の海上保安機関による北太平洋海上保安フォーラム専門家会合が開催され、村上参事官ほか11名が参加しました。今回

の会合では、従来からのテロ対策や不法漁業操業対策に加え、新たに自然災害や油流出事故への対応等についても実質的な議論を開始し、活発な意見交換を行い、今年9月に上海で開催予定の長官級会合に向けて各種準備を進めました。



来島海峡の潮流信号所、電光表示方式に統一! ～中渡島潮流信号所103年の歴史に幕～



3月26日、来島海峡の潮流信号所が生まれ変わり、新たな表示方式による運用を開始しました。新システムの移行に伴い中渡島、津島、大浜にある旧信号機は順番に運用を停止しました。津島、大浜の各潮流信号所は、新しい電光表示板の信号を開始しましたが、来島海峡の中央部に位置し、明治42年から業務を開始した中渡島潮流信号所は同日廃止され、我が国最後の腕木式潮流信号機も引退となりました。



海上保安大学校、海上保安学校入学式



4月12日に海上保安大学校（広島県呉市）、4月13日には海上保安学校（京都府舞鶴市）において入学式が執り行われました。写真は海上保安学校の様子で、新入生代表の船舶運航システム課程航海コース第41期の古賀学

生が「海上保安学校学生としての自覚と誇りを持ち知識・技能の習得に励み、心身を鍛え国民の期待に応えられる海上保安官を目指して努力することを誓います。」と力強く宣誓しました。

南の海を守り続けて半世紀、未来へつなぐ半世紀

第十管区海上保安本部 50年の歩み、そしてこれから



第七管区海上保安本部から独立する形で誕生して50年。

以来、第十管区海上保安本部は、南九州の広い海域を守り続けてきた。

銃撃を受けた北朝鮮工作船事件をはじめ、大量密輸や密航、さらには台風や豪雨による海難や災害など、多種多様な事案に直面し続けた50年を振り返る。

取材／中島 敦(オンサイト)



「南九州の海上保安50年史」の編集委員長を務めた伊藤雅之第十管区海上保安本部長。二コスト的に数多く印刷することはできませんでしたが、今後インターネットなどの公開を考えていきたい」とも。

「南九州の海上保安50年史」の編集委員長を務めた伊藤雅之第十管区海上保安本部長。二コスト的に数多く印刷することはできませんでしたが、今後インターネットなどの公開を考えていきたい」とも。

今年1月18日、鹿児島サンロイヤルホテルにおいて、第十管区海上保安本部設立50周年記念式典が催された。「諸先輩が築いた伝統と情熱を引き継ぎ、全力で業務にまい進する」という佐藤雄二本部長(当時)の式辞に続いて、海上保安庁次長はじめ来賓による挨拶があり、厳しい業務に取り組んできた第十管区海上保安本部の50年間に振り返り、同時にこれからも続く任務への決意を新たにする一日となった。



第十管区海上保安本部の50年が綴られた『南九州の海上保安50年史』は今年3月の発行。見事な題字は書家、上籠純牛氏によるもの。

昭和37年1月1日、それまで九州全体を管轄していた第七管区海上保安本部を二分する形で、熊本、宮崎、鹿児島県の3県を受け持つ第十管区海上保安本部が誕生した。西は東シナ海に面し、南は奄美諸島まで、東西約1000km、南北約700kmという広大な海域を受け持つ。台風や豪雨が発生しやすい南の海に多数の離島を有しており、その島々で多くの人々が生活しているのも特徴だ。当然、災害や海難に直面する機会も多い。日本の南の玄関口であり、多くの外航船、内航船が往来する海域であることから、密航・密輸に関する事案も後を絶たず、さらに近年は近隣諸国が海洋調査を活性化させるなど、海洋権益を巡っても重要な海域となっている。

第十管区で発生した事案の中で誰もが真っ先に挙げるのが、平成13年の北朝鮮工作船事件だ。この時の映像は幾度となくテレビなどで報道され、暗い海上に響く機関砲の音と閃光は、日本の海も決して安全ではないのだということを改めて人々に印象付けた。また、平成5年には通称8・6水害と呼ばれる豪雨が鹿児島市を中心とする地域を襲った。この時、土石流によって国道が分断され、陸の孤島状態となった地域住民を海上から救出に向う海上保安官の姿は、土砂が道路や駅舎を覆う衝撃的な映像と共に、強く人々の記憶に刻まれた。

その他、145名もの中国人集団密航事件（平成5年）や、564kgもの覚せい剤密輸事件（平成11年）など、どちらも「数」という意味では史上最大規模のもの。台風や豪雨による被害と共に、南の海の50年間は、荒れ模様だった。



50周年を記念して海上保安庁のシンボルである梅（紅白2本）が植樹された。本部長、次長だけでなく将来を担う若手も参加した。

数々の、様々な事案に直面し、解決してきた第十管区海上保安本部。その功績について同本部の伊藤雅之次長は、「諸先輩方が積み上げてきたものがあって成果がある。今後の未来も、やはりその積み上げの上にあるでしょう」と継承の重要性を強調した。緊張感を増す東シナ海の海洋権益、密航や密漁の多い地勢、そして自然災害への対応。地域色濃い事案への経験は、日々の業務を通じて先輩から後輩へと引き継がれていく。中でも台風や豪雨を避けようのない地理条件において、日頃から地域住民との連携を深め、地域一体となった災害対策は欠くことのできない重要テーマだろう。さらに東日本大震災の後でもあり、東海・東南海から日向灘まで連動する大地震の発



1月30日には鹿児島市民文化ホールにて海上保安庁音楽隊による記念コンサートが開催され、映画『The Last Message 海狼』で使用された曲をはじめ全12曲が演奏された。



記念式典で『誓いの言葉』を宣誓する若手海上保安官達。これからの歴史を築くのは彼らだ。

生にも備える必要がある。また近年では大正、昭和と噴火している桜島だが、観測によると当時の9割程度までマグマが溜まってきており、そう遠くない将来に爆発する可能性もあるといい、いざという時には巡視船艇での救助を想定し準備しておかなければならない。

第十管区海上保安本部は50周年を記念して『南の海を守り続けて半世紀 未来へつなぐ半世紀』というスローガンを掲げたが、その半世紀はまさに南の海を守り続けてきた50年間であった。そして、それは今後も継承されなければならない。記念式典での若手海上保安官による『誓いの言葉』は、まさにその決意表明なのだ。

その時、私は

北朝鮮の工作船から銃撃を受け、3名が負傷した北朝鮮工作船事件
 ケタ外れの1万人を招待し実施されたJCG1万人クルーズin錦江湾
 準備に翻弄された単独庁舎から合同庁舎への移転
 第十管区海上保安本部に関連した出来事を当事者が振り返る



巡視船の防弾化が進むなど 海上保安庁の前進にもつながった

平成13年12月22日、奄美大島北西約200海里の東シナ海において、不審船として停船を命じた北朝鮮の工作船から自動小銃及び口ケットランチャーで攻撃を受けた。工作船は自爆、沈没したものの（後に引き揚げ）、海上保安官3名が負傷する衝撃的な事件であった。

あ

の時は単身赴任中で、入港したら休暇を取って家族に会うのを楽しみにしていました。22日の午前2時頃、奄美大島東側の海域を夜間しよう戒している時に名瀬海上保安部（現奄美海上保安部）から「不審船の確認に向え」と出動命令を受けて現場に向いました。

現場に到着したのは午後4時頃でしたが、すでに巡視船『いなさ』と『きりしま』は到着しており、工作船に対して停船命令や威嚇射撃を行っていました。『みずき』も我々に続いて到着しています。現場で初めて工作船を見たとき、船体が青色だったので「隣これは中国漁船ではないかと疑いましたが、繰り返し停船命令や威嚇射撃を行っても停船しないので、これは工作船に間違いのないと思いました。

『いなさ』と『みずき』が威嚇のための船体射撃をし、『あまみ』は他の巡視船の後方から探証活動と支援を行っていました。午後5時30分頃には船体射撃により工作船に火災が発生して甲板上が燃え上がりしました。これで勝負が着いたと思ったら、船橋に

炎が来ないように後進しながら消火作業したのには驚かされました。その後も工作船は航走や停船を繰り返していましたが、午後9時30分頃に、『あまみ』と『きりしま』で挟撃捕捉しようと準備にかかったのです。最初は船体が風に流されたため一旦後進し、改めて工作船の右後方から微速で接近を開始しました。

『あまみ』の左舷船首付近が工作船に接触した直後、工作船から銃撃が始まりました。すぐに船橋にいた乗組員に身を伏せるように叫び、全速後進を指示。『きりしま』と『いなさ』も被弾しました。『あまみ』と『いなさ』が正当防衛射撃を実施しましたが、工作船は自爆と思われる爆発で沈没しました。

私を感じているのは、あの時巡視船4隻で対応したんですが、『あまみ』は3番目に現場に到着し、停船命令も威嚇射撃もしていない。後から行って他の巡視船を支援したのです。銃撃を受けたことで『あまみ』ばかりクローズアップされていますが、いちばん働いたのは『いなさ』、『きりしま』、『みずき』です。この点をしっかりお伝えしたい。



鹿児島県航海運組合事務局長
 元巡視船あまみ船長
 久留主 眞佐夫

また、あの時の映像は、接舷、挟撃の様子を船橋後部から撮影したのですが、接舷の直前、船外で撮影していた乗組員に危険だから中に入れと指示したところ、一旦船内に入りましたが、彼は自分の考えで船橋後部に行つて、船橋後部に行つて撮影を続けたんです。それは後で聞きました。あの映像があったから遠い海の上で起こった類をみな重大事件の実態を国民のみなさんに理解していただくことができたもので、彼の働きが海上保安庁を助けてくれたと思いますし、命懸けで緒に任務に当たった乗組員の存在を大変大きく思っています。

『あまみ』においては、船も損傷を受けましたし、負傷者が出たことは非常に残念です。ただあの後、船の防弾装備が整えられたり高速化が進んだり、海上保安庁にとっては役に立つ面もあったのではないのでしょうか。正当防衛射撃で『あまみ』の乗組員を助けてくれた『いなさ』には、今でも命の恩人として感謝しています。また何よりも、いくつもの幸運が重なり死者が出なかったことが良かったと思っています。

トップの号令あればこそ実現できた 空前絶後の1万人クルーズ

一般市民を乗船させるJCGクルーズは、海上保安庁と市民の接点となる重要なイベントのひとつ。だが、平成16年に開催されたJCG 1万人クルーズin錦江湾は、2日間で1万人という人々を招く空前絶後のイベントとなった。勅命を受け、東奔西走の末に実現にこぎつけたイベントの内情は？



鹿児島海上保安部管理課専門官
元第十管区海上保安本部総務課長補佐

川崎 克三

冗

談だと思いましたがよ、最初は。1万人ですよ！ 錦郡満次長（当時）に呼ばれ、「うちの本部長は本気で1万人集めてクルーズをやるらしい」と告げられたわけです。あの時は顔から血の気が引き、足がガクガクと震えました。普通は1000〜1200人ぐらいで実施するんですが、それを1万人ですからね。

ただ、なにしろ野網仁本部長（当時）自らが陣頭指揮に立ったので、各部が本腰入れて取り掛かってくれました。早い段階で幹部や関係者を集めていただき、その初会合でPLH型巡視船2隻によるピストン輸送という案が提示され、瞬時に骨子が固まりました。またちょうどこの年『かこしまウォーターフロントフェスティバル』が開催されるというのを聞いていたので、それとタイアップして1万人を集めようと検討を進めました。地元テレビやラジオに出演したり、映画『海猿』の公開に合わせて映画館に頼み込んでポスターを貼らせていただき、応募用紙も置かせていただいたの必死の集客です。また友の会の方々にもご協力いただきました。

その甲斐あって応募ハガキは日々集まり、皆で応募者のデータを入力していたんですが、「1万人！」と誰かが叫んだときにはつい方歳していました。

もちろんイベント初日は不安でした。出足はどうか、天候はどうだ？でも、両日とも快晴で暑いぐらい。こうなったらもう、お客さんを引きずってでも1万人集めなければと（笑）。そして2日目、数取器カウンターが夢に見た大台に近づいていき、念願の1万人に達しました。1万人目の乗船客には、駆けつけた本部長自ら記念品を贈呈しました。また、カウンターの数字は最後は1万1037にまで伸びました。

いろいろ手違いもありましたが、この時は不平不満を口にする方がいなかったのだから驚きました。大きなイベントをやる時は上の人間の号令が必要なんです。下がいくら汗掻いても、親分が旗を振らなければどうにもならない。十管に40年間勤務しましたが、私にとつても大変良い記念になりました。

単独庁舎から合同庁舎へ 落成式直前の電話に翻弄された夜

平成6年、第十管区海上保安本部は、それまで鹿児島新港にあった単独庁舎から、東郡元町の合同庁舎へ移転した。日々の業務に追われながらも無事に移転を取りまとめ、落成式を翌日に控えた庶務係長に、予想もしない電話が入った……。

あ

の時は参りました。ようやく漕ぎつけた落成式のまさに前日、春夏本部長（当時）から電話が入り、「明日の鏡割りは来賓の数を増やすことにした。ついでに酒樽を1つ追加せよ」と指示されたんです。慌てて酒屋に連絡しても手配できない。四方八方に連絡を取り、ようやく日付が変わる直前になってある酒屋さんから「熊本の造り酒屋にひとつあるようです。これから取りに行きます」と連絡があった。渡りに舟とはこの事でした。もう酒樽作つて、中に水を入れてしまおうかとも考えてましたが、さすがにバレたらと思うと恐ろしいですね（笑）。

機関も一緒に入ったほうが機能的で業務しやすい、というのがあったんですね。そうすれば自衛隊や法務局、気象台なども入って、一緒に業務できるといういきさつでの移転でした。

翌朝届いた酒樽を、式典までのわずかな時間に準備して、どうにかこうにか落成式を無事に終えた次第です。笑えない後日談があるんですが、大量に残った清酒をもったいないからと飲んで、今度は自分が急性肝炎で3ヶ月も入院するというオマケ付きでした。

実は私、その前の北村孝本部長（当時）にも思いがけない指示を受けてましてね。「十管は外との交流がない。ついでには市民との交流のため、おはら祭りに全員引き連れて出ろ」と。鹿児島のおはら祭りと言えば南九州最大のお祭りですが、宮崎生まれの自分はおはら節とか踊りは分らない。仕事が終わると公民館に通って必死に踊りを覚え、以来20年間、毎年続けて出ています。地元の人から見ると我々は制服官庁で堅苦しいという印象があるようですが、こうして交流を続けているとイメージも変わってきて、いろいろな話ができるようになる。それもひとつの情報収集になるんですね。この話を聞いて県警本部も参加しようと思ったようですが、さすがにあらは当日の雑踏警戒で人手を取られるので、少ない人数で諦めたようです（笑）。



第十管区海上保安本部総務課 総務指導官
元第十管区海上保安本部総務課庶務係長

赤木 富二男

昭和50年代

経済は依然として成長を続け、資源の大量輸送により海上交通はますます活発に。大量消費に係わる海上公害も発生した。また各国では、自国の権益確保のため領海の拡大と排他的経済水域を設定する動きが広まった。

国内でも52年7月に「領海法」と「漁業水域に関する暫定措置法」を施行、領海の幅員を12海里とし、200海里の漁業水域を設定する。これにより管轄する海域は約50倍に拡大した。また「1979年の海上における捜索及び救助に関する条約」(SAR条約)が採択され、日本もこの条約の批准と体制整備のための準備が進む。海上保安庁もヘリコプター搭載型巡視船を筆頭に巡視船艇と航空機の整備を進め、南海海域の監視取締りを強化するため、鹿児島海上保安部にヘリコプター1機搭載型巡視船「おすみ」が配属されるなど、広域的なしょう戒体制を確立した。さらに57年に採択された海洋法条約に対応して大陸棚確定などのため大型測量船の建造を進めた。航路標識についても太陽電池を電源とした沿岸灯台の設置、有線監視装置の採用など新技術の導入が図られた。

【主な出来事】

昭和51年9月12日

パナマ籍貨物船ジクス号(2,555総トン 乗組員23名)台風17号接近により水保港外で避泊中走錨、乗揚げ、C重油約230キロリットル流出。

昭和53年3月25日

志布志湾において新大隅開発計画に反対する漁民の抗議行動に対し警備を実施。

昭和54年1月15日

南アフリカケープタウン沖の日本漁船内殺人事件で乗組員を逮捕。

昭和55年8月23日

火災事故を起こしたソ連原子力潜水艦の領海内通過に伴い、沖永良部島・与論島間の領海警備等実施。

昭和56年4月9日

甌島列島南西海上で米国原子力潜水艦と貨物船日昇丸(2,350総トン 乗組員15名)が衝突。日昇丸沈没。乗組員13名救助、2名死亡。

昭和40年代

高度成長を続けていた日本だが、ベトナム戦争、東西冷戦、ドルショックといった国際情勢の影響を受け、48年には第一次石油危機を迎える。また高度成長の副産物として公害問題がクローズアップされ、海洋においても工場廃水や産業廃棄物、生活排水による汚染が社会問題化。一連の海上公害関係法令が整備された。貿易の自由化と石油エネルギーへの転換等による輸送量の増大により、船舶の大型化、高速化が進み海上交通の安全確保が急務となり、海上交通安全法が施行された。

南九州海域においては、九州と奄美大島、沖縄等を結ぶ定期旅客船の大型化、首都圏、阪神とを結ぶ大型長距離カーフェリーの運航開始など物流も活発化。石油の安定供給を図るため日本石油が喜入町に石油中継基地を建設。また遠洋、あるいは近海で長期行動する漁船において労働環境の悪化等により殺傷事件が多発、悪質な密漁事犯も発生した。

南九州の海上保安を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、悪質巧妙化する犯罪、多発する海難救助、海上公害、災害の防止など、業務は複雑・多様化。迅速な対応が求められた。巡視船艇・航空機を増強し監視取締り体制の強化、即応体制の確立。また臨海工業地帯の開発や海上交通の活発化に伴う港湾航路等の整備に対応するため、航路精測と海図の改版、航路標識の整備を推進した。

【主な出来事】

昭和40年1月4日

パラオ近海で操業中のまぐろ延縄漁船の乗組員が他の乗組員と口論のすえ刺殺。本邦入港を待ち逮捕。

昭和41年11月25日

漁船進幸丸(2総トン 乗組員1名 定員12名)が定員超過により天草郡千束蔵々島の大桜部落沖で沈没。40名救助、5名死亡。

昭和43年9月10~19日

種子島宇宙センターにて初めてのロケット打ち上げ実験。漁場を奪われると漁民220名が実験海域で阻止を図ったため、巡視船艇延べ63隻、航空機延べ6機で海上警備を実施。

昭和44年10月5日

喜入港で原油荷役中のタンカーから漏油事故発生。

昭和46年10月14日

南洋群島付近海域で無許可まぐろ密漁事件(2億1,500万円相当)を検挙。

昭和49年4月1日

漁船第1清栄丸(59総トン 乗組員23名)が屋久島の南約15海里で大波を受け浸水沈没。10名救助、1名死亡、12名行方不明。

草創期(昭和37年~昭和39年)

山口県から奄美群島までの広大な海域を管轄していた第七管区海上保安本部を二分し、熊本、宮崎、鹿児島県の3県の区域・周辺海域を受け持つ第十管区海上保安本部として鹿児島県に設置される。東西冷戦の緊張高まる状況下、高度成長期の南九州は臨海工業都市の造成や港湾の整備拡充が相次ぎ、奄美大島をはじめ離島との往来も活発になっていった。同時に漁船の性能向上により遠洋への進出も始まったが、一方で遠距離での台風等による海難の増加。また貿易、為替の自由化に伴い手続きを踏まずに輸出入を行なう者が増加。奄美群島を中継地とし、時計、宝石、ウイスキーなどの密輸も目立っていた。38年をピークとして韓国貿易船を利用した密航者や小型船による集団密航が各所に発生。

また内之浦に東京大学宇宙空間観測所が開設し、ロケットの打ち上げ実験が始まる。通行船舶や漁船の安全確保も重要な案件となった。

【主な出来事】

昭和37年5月7日

皇太子・同妃両殿下が鹿児島県行啓の際、巡視船「せんたい」に御乗船のうえ、鹿児島湾を御視察。管区本部は警備本部を設置し、警衛を実施した。

昭和37年5月27日

漁船第1佐多丸(99総トン 乗組員16名)が屋久島安房沖合で荒天のため浸水、沈没。乗組員1名救助、15名行方不明。

昭和38年1月19日

漁船第6福洋丸(39総トン 乗組員13名)が都井岬の東南東約280海里で荒天のため浸水、沈没。乗組員は全員救助された。

昭和39年5月26日

東南アジア、沖縄、九州ルートの密輸組織を捜査し、定期旅客船H丸を利用して沖縄から九州、阪神方面へ外国製腕時計等2,340万円相当を密輸入していた同船機関長他6名を逮捕し、2名を任意で取調べ、外国製腕時計、ルビー、さんご指輪等30点を押収。

昭和39年9月25日

台風20号により139隻(管内では47隻)が遭難。



第十管区海上保安本部50年の歩み

Chronicle

まだまだあります！ 50周年関連事業

第十管区海上保安本部では50周年を記念してさまざまな事業やイベントを企画している。そのひとつが、うみまる&うーみんのご当地バージョン。管内の3県、鹿児島、熊本、宮崎をイメージした3つのバージョンが登場した。また7月2日には第十管区海上保安本部設立50周年の記念切手シートが発売される。桜島を背景にした巡視船PL52「あかいし」の写真を中心に、巡視船艇や航空機、機動救難士、灯台、そしてうみまる&うーみんなど、さまざまな絵柄の50円切手10枚が揃っている。最新作「BRAVE HEARTS 海猿」の図柄もファンには魅力的だ。そしてもちろん、今年は2年振りに十管区総合訓練が開催される。巡視船に乗って救助訓練などを間近で見る絶好のチャンス！日程など詳しい情報は第十管区海上保安本部のホームページで確認しよう。



記念切手は7月2日発売。ただし、鹿児島市内の郵便局のみの取扱い。



第十管区海上保安本部ホームページ▶<http://www.kaiho.mlit.go.jp/10kanku/>

平成15年～23年

世界経済が低迷する反面、中国の台頭が進む。国際テロや北朝鮮のミサイル発射と核実験、ソマリア周辺海域、東シナ海における海洋権益を巡る各国の動きなど、海上保安を取り巻く環境はますます国際化し、厳しさを増す。

マラッカ・シンガポール海峡やソマリア沖での海賊問題が顕在化。海上保安庁は東南アジア海域での海賊しょう戒を続け、21年からは海上自衛隊の護衛艦に、ソマリア周辺海域派遣捜査隊を同乗させ、アデン湾に派遣している。

19年7月海洋基本法が施行され、20年に大陸棚調査が終了するが、国連の勧告に基づき我が国の領海及び排他的経済水域は200海里を越えて拡大できる可能性がある一方で、海上における各国の軋轢は強まってきており、尖閣諸島周辺をはじめとする周辺海域において近隣諸国による海洋調査や資源開発が活発化する。このため自国の権益を守るため巡視船艇・航空機を活用しよう戒を強化した。

航路標識にLEDや太陽電池を利用することで地球環境に配慮した省エネ、エコロジー化の整備を進める。

【主な出来事】

平成15年12月9日

草垣島灯台の電源をディーゼル発電機から太陽電池に変更、我が国最大の太陽電池灯台が誕生。

平成16年12月17～18日

指宿市内のホテルにおいて、小泉総理と大韓民国盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領による日韓首脳会談が開催、警備本部を設け大規模な警備を実施。

平成21年11月20日～12月10日

巡視船「はやと」をアジア各国との海賊及びテロ対策に関する相互協力推進の一環としてインドネシア共和国に派遣、同国海上保安機関との連携訓練等を実施。

平成22年10月20日

奄美大島において局地的な豪雨により、土砂崩れ等が発生。対策室を設置し、被害地域の情報収集と孤立地域から透析患者の搬送などを実施。

平成22年11月9日

奄美大島西方の我が国排他的経済水域において、ケーブル様のものを曳いている中国海洋調査船に対し航空機により中止要求等を実施。

平成23年4月9日

薩摩半島西方の我が国排他的経済水域において、無許可操業中の中国漁船を水産庁の漁業取締船が発見、巡視船による停船命令を無視し逃走を続けたが、強行接舷のうえ同船船長をE Z漁業法違反で現行犯逮捕。

平成5年～14年

湾岸戦争（平成3年）終結後もサウジアラビアにアメリカ軍が駐留を続け、アメリカに対するイスラム過激派の反発は収まらず。世界各地でテロが発生し、13年9月には米国本土において同時多発テロが発生した。アジアでは北朝鮮がミサイルを発射、11年3月23日には能登半島沖で日本漁船を装った不審船が発見され、巡視船艇・航空機で追跡するとともに、海上自衛隊に海上警備行動が発令された。不審船は38年に初めて確認されて以来、全国での確認が20隻にのぼり、北朝鮮を巡り極めて緊迫した状態となった。一方、中国人を中心とした集団密航は4年から増加の一途。同時に青少年層を中心とする覚せい剤の乱用が深刻化。薬物の密輸入も大口化した。このような状況下、南九州海上で海上保安庁が取り扱った最大規模の密航事案、密輸事案が発生。13年12月には九州南西海域不審船事案発生と激動の10年となる。

GPS普及により測位技術をめぐる国内外の環境変化。13年6月30日に「水路業務法」を一部改正し、海上における経緯度の基準を日本独自の基準から「世界測地系」に移行。13年4月1日、インターネットを通じて「海の安全に関する情報」をリアルタイムに提供する「沿岸域情報提供システム」(MICS)運用開始。

【主な出来事】

平成5年4月3日

阿久根港内を徘徊中の第38長門丸に乗船していた中国人密航者145名を不法入国容疑で、同船乗組員4名を同乗助容疑で現行犯逮捕。

平成5年8月5日～18日

九州南部に降り出した豪雨により、鹿児島市奄ヶ水地区では土砂崩れが発生。孤立住民等を搬送するため、巡視船艇延べ47隻、航空機延べ15機により、被災者1,380名を救助。

平成6年12月12日

日本漁船玉丸が大麻を密輸、十本部、鹿児島県警、鹿児島税関支署による合同捜査を実施し、玉丸船長及び機関長並びに暴力団員等5名を関税法違反で逮捕。

平成11年10月3日

関係機関との合同捜査により、鹿児島県黒瀬海岸で台湾漁船新生号から陸揚げした覚せい剤約564kgを押収し、同船の台湾人乗組員5名を覚せい剤取締法違反容疑で逮捕。

平成13年12月22日

九州南西海域不審船事案発生。

平成14年2月1日

2002年日韓ワールドカップ開催に伴い、「第十管区海上保安本部2002年FIFAワールドカップ安全対策室」を設置。

昭和60年から平成へ

世界的に民主化の動きが広まり、緊張緩和と平和共存への移行が進む。東西ドイツの統一、ソ連解体、ロシア連邦の誕生、南北朝鮮の国連同時加盟など。一方で中東・北アフリカ地域や東欧諸国など一部の地域で石油資源や民族問題をめぐって紛争が続く。

60年6月のSAR条約発効に伴い、10月に「船位通報制度」を導入するとともに「洋上救急制度」を開始。また61年12月には米国と日米SAR協定を締結。本邦太平洋沿岸から1200海里に及ぶ広大な海域が捜索救助区域となった。さらに62年、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が施行され、平成4年には「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律」も施行、海上保安庁の活動範囲はますます拡大、国際化していった。

このような状況下、南九州海域においては台風による小型船船等の転覆・沈没海難、不審船の徘徊、ベトナム難民船の来航等の事案が発生した。

また海洋法条約の発効に備え、領海基線、領海、排他的経済水域、大陸棚の境界線または相対国との境界線を確定するための測量を実施。63年、与論島について領海基線を確定するための精密な測量を実施し、「沿岸の海の基本図」が刊行された。

【主な出来事】

昭和60年3月31日

串木野港を出港した瀬波船開洋丸が荒天により転覆。14名死亡、13名行方不明

昭和60年7月19日

屋久島南約28海里で漂流中の小型船内に衰弱した男女9名(ベトナム人)を発見。鹿児島入港後入国管理局に引き渡した。

昭和60年8月31日

鹿児島県枕崎市に上陸後、九州西岸を北上した台風13号により480隻が遭難。

昭和63年1月14日

大島郡龍郷町門地先海面における生コン残渣不法投棄事件で34業者を検挙。

平成元年9月19日

台風22号の荒天下、パナマ籍貨物船MANSHION TRADER (3,422総トン 乗組員21名)が、種子島西之表市の海岸に乗揚げ。乗組員全員へりにより救助。

平成4年3月3日

パナマ籍アセアン・トレーダー号(5,552総トン 乗組員17名)、都井岬東方約12海里で救命ボート訓練中、ボート(12名乗組)転落。5名救助、1名死亡、6名行方不明。

うみまる&うーみんに新タイプ 広報プレーアップ賞を受賞!

海上保安庁のイメージキャラクター、うみまるとうーみん。第十管区海上保安本部は、イベントで使用するうみまるとうーみんの着ぐるみに、新しい「バルーンタイプ」を採用した。このタイプは、従来型と比べて圧倒的に動きやすくなり、機動性を大きく向上させることで地元イベントに多数出演するなど、広報業務に著しく貢献したとして、平成22年度上半期広報プレーアップ賞を受賞した。なお、機動救難士の装備を纏ったうみまるは、第十管区のオリジナルバージョンだ。

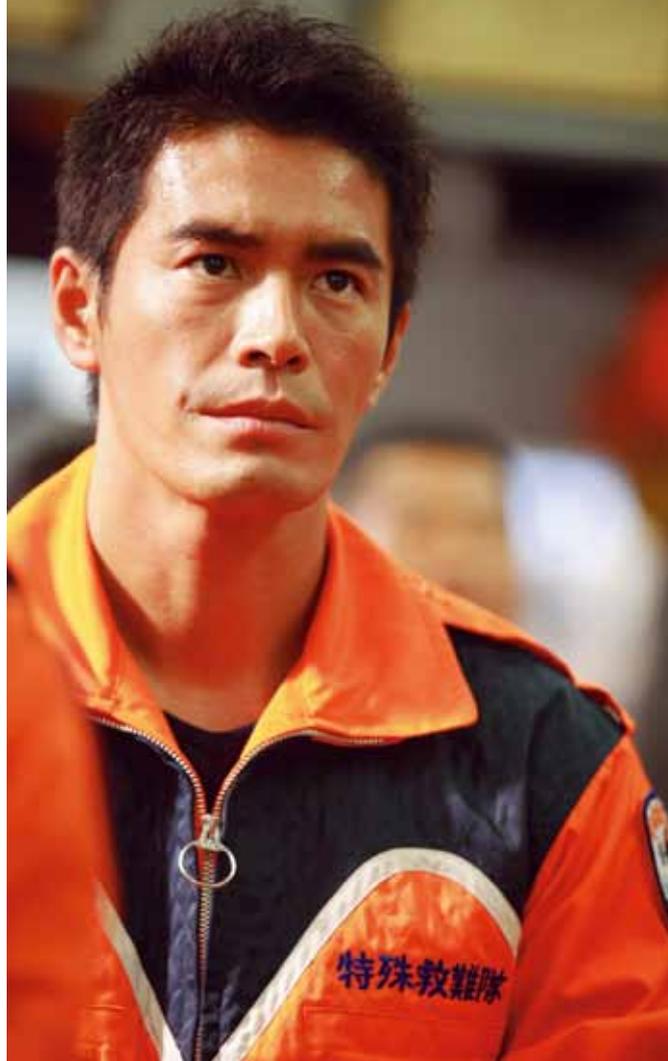


「今日もライフジャケット日和だね!」

マリネジャー安全推進活動に鹿児島の ご当地アイドル「サザンクロス」とタイアップ

第十管区海上保安本部では、より効果的なマリネジャー事故防止活動を推進するため、九州の観光PRアイドルユニット「サザンクロス」をマリネジャー安全推進ガールに任命し、釣り人をはじめ、幅広い世代にライフジャケットの着用などを呼びかけている。4月28日には地域イベントのステージで任命式が行われ、うみまると一緒に海難防止を呼びかけるチラシや風船を配布。マリネジャー安全推進ガールとして初の活動が行われた。





BRAVE HEARTS 海猿

主演

伊藤英明

INTERVIEW



「BRAVE HEARTS 海猿」

7月13日(金) 全国東宝系ロードショー
©2012 フジテレビジョン
ROBOT ポニーキャニオン 東宝 小学館
エー・チーム FNS27社

Q… 完結編となる前作『THE LAST MESSAGE 海猿』から2年。

『BRAVE HEARTS 海猿』の製作が決まった時の感想は？

最初に聞いた時はびびくりしました。ただ、一方で前作をやりながらどこかで、終わらないだろうな… という思いもありました。

それはなぜかと言うと、仙崎が特救隊(特殊救難隊)に行っていないから。

海難救助の最後の砦である特救隊で活躍する仙崎の姿は、海猿ファンの皆さんもずっと見たいんじゃないかなと思いましたが、今回それが実現できたのは良かったですね。

演じる自分にとっても、仙崎が特救隊に行くことで、また新たなスタートの気持ちで現場に臨むことができるので、良い設定を用意してもらえたな、と思いました。

Q… 『ジャンボジェット機の海上着水事故』を描く、本作のストーリーについての感想を

今回は、海上保安庁のメンバーだけでは対応しきれない規模の事故が起きて、時間も無く人員も少ない中で、沈没しかけた飛行機の乗客を救うために、周りにいる漁師さんとか色々な船が集まって、他にも日本全国

のたくさんの人達が事故を乗り越えようと支え合う姿が描かれていたり、まさに今の日本に必要な光景なんじゃないかと思ってます。そして、その中で事故に立ち向かう仙崎の姿はやっぱりカッコいいし、みんながこういう人間であれたらいいなと感じるストーリーですね。

Q… 本作の撮影現場を振り返っての感想を

毎回この映画をやっている時は本当に楽しかったです。きついと思うことも沢山ありますが、大勢のファンの皆さんが映画を観てくれるからこそ、大変な撮影もやり通せます。

いつも台本を読んだ時は、これどうやって

撮るんだ!?と思うようなシーンや大規模なセットも、目に見えないスタッフの努力でしっかり形になっていて、自分達はそこについて演じるだけでいい。

今回も台本を読んだ段階でもの凄いことをやるなって思っていたので、どうなるのかなというワクワク感がありました。で、結果、期待以上のものがセットとして出来上がっていました。

こんな良い環境でできる映画は他になかなか無いと思うし、それだけに自分達も負けずに頑張らないといけませんし、緊張感に溢れたエキサイティングな現場でした。

Q… 特に大変だったシーンは？

全部キツかったです(笑)。傾いたジャンボ機のセットの中で何日も演技しないといけないから、特救隊の何十キロもある機材を背負いながらのシーンもあって。しかも映画の撮影だから時間がかかるわけで。

あと、救助される平山(浩行)君も大変

だったと思います。水中に沈めたセットの中の演技で、しかも平山君は(ポンベ)をしないので、空気が無くて…。これを素人にやらせちゃいけないですよ(笑)。救助される側の方が大変だったと思います。

Q… 今回仙崎を演じる上で心がけたことは？

事故現場の撮影でもそうですが、やっぱり羽住(英郎)監督は、演じる上での環境作りがすごくうまい方で、それに環菜役の(加藤)あいちゃんや吉岡役の(佐藤)隆太ともこの10年ずっとやってきてますし、今回はそこに子供である大洋もいる。あいちゃんと本当に大洋をあやしたり、一緒にご飯を食べたりしていく中で、どんどん近くなっていきました。

だからあえて今回かこうしようっていう意識は全く無くて、僕らの重ねてきた年月と、大洋の可愛さで、自然と出来上がっていききましたね。



Q…特救隊員を演じる上で準備したことは？

特救隊は、彼らがお手上げだつて言ったらもう救えないくらい、海難救助最後の砦という存在で、あらゆる海難事故に対応し、どこでも飛行機で駆け付け、潜水士の中でもエリート中のエリート。現場ではひとりでも回することも多いし、あらゆる判断を自分で下せる。芝居で何かを変えろというところはありませんが、よりハイレベルなスキルを求められる組織なので、撮影前に羽田の特救隊基地に行つて、彼らが「日どろ」という動きをしているのかや、実際の訓練などを見せてもらいました。

Q…パイ役の佐藤隆太さんとの共演について

(佐藤)隆太とも長いですからね。何年経つてもやりやすいです。ただ今回はかなり

隆太が活躍しますし、これまで仙崎がやってきたようなカッコいいシーンが多い。そこは全面カットかなと(笑)。

Q…仙崎と対立する嶋(伊原剛志)の存在について

仙崎も嶋も、二人とも想いは緒なんですよね、そのアプローチが違うだけで。救助する側の人間は、自分の安全をまず確保するのが第一ですが、仙崎は、目の前に要救助者がいると周りが見えなくなつて、すごくギリギリのところ、救助に向かつてしまうと、あつて。だけどそういう仙崎の力が、次第に周りを動かしていく。だからどっちが良いとか悪いとかではなくて、人それぞれなのかなと思いますね。

また仙崎にとつて嶋さんは、先輩であり、ライバルであり、同じ仲間でもある。そういった人に「救助をする人間としてぶつかつていける

ということば、すごく新鮮なことでした。

Q…本作の公開に向けて、プレッシャーは感じますか？

前作の時は感じましたけど、今回は無いです。

振り返つてみると、最初の『海猿』(2004年)が終わつた時点で、映画の2作目が凄くやりたくて。その前にまずドラマをやることになつて、5ヶ月間、骨を折りながらも死に物狂いで頑張つて、その後、絶対当てるぞ！という気持ちで作つた2作目『LIMIT OF LOVE 海猿』(2006年)がヒットして、3作目は、脚本もスケールも2を超えなきゃならないから、怖くなりますよね。3作目をやるにあつて、ファンの方々から嘆願書まで頂きましたし、自分の中でも大きなプレッシャーを感じていました。でも、そんな3作目

(『THE LAST MESSAGE 海猿』/2010年)がファンの皆さんのお陰でまた大ヒットして、自分の目標も達成されましたし、今回は全くプレッシャーは無いです。

逆に、今回はただヒットしてほしいというよりも、お客さんに愛される作品になつてほしいという気持ちの方が大きいです。

Q…海猿ファンの皆さんへメッセージを

海猿シリーズも最初からもう10年近く経つていきますし、昔子供だったお客さんも成長して、世代を超えて、また大勢の皆さんが映画を観に来てくれるのかな、と思うと、とても楽しみです。

今回は全てが『海猿』の集大成と呼べる内容になつています。

そして、映画で描かれる沢山の人の繋がりを、ぜひスクリーンで感じてもらえたらと思います。

NEWS FLASH



中学生の職場体験学習

5月8～9日・尾鷲海上保安部



大津岬灯台が復旧

3月19日・茨城海上保安部



中学校3年生が船内見学及び職業体験

4月27日・小樽海上保安部



デザイン灯台 【千代崎港南防波堤灯台 三重県鈴鹿市】

第四管区海上保安本部



海開きでの水上安全教室

4月22日・古仁屋海上保安署



巡視船「やまくに」一般公開

4月28日・大分海上保安部



迷子の子猫を保護

3月2日・千歳航空基地



対馬市立巖原中学校体験学習

2月28日～3月1日・対馬海上保安部



「救命浮環内蔵型」 青い羽根募金支援自動販売機を設置

4月25日・玉野海上保安部

漁船火災における消火活動

4月20日・稚内海上保安部



震災から384日ぶりに帰還 MA722「みずなぎ」

3月29日・羽田航空基地



広島で「うみまる潜水士」初出動

4月14～15日・第六管区海上保安本部



田辺市立図書館に「かいほジャーナル」設置

4月18日・田辺海上保安部



流氷上のゴマフアザラシ

3月16日・羅臼海上保安署巡視船てしお



横須賀市消防局との遠距離送水訓練

2月29日・横須賀海上保安部



118番通報による海難救助

2月25日・若松海上保安部



ご当地「うみまる、うーみん」お披露目

清水海上保安部



犬吠埼灯台に日本初の「白い丸型ポスト」を設置

3月14日・銚子海上保安部



アグスタ139 初の女性機長誕生 堀田美保子飛行士

3月29日・那覇航空基地

INFORMATION

大切な命！自分で守る ～海上保安庁からのお願い～

今日もライフジャケット日和だね！

～家族も待ってる、あなたの帰り～



釣り中の事故による
死者・行方不明者の減少を目指して！

第十管区海上保安本部 マリンレジャー安全推進ガール 

九州の観光PR
アイドルユニット
「サザンクロス」

平成24年4月28日、第十管区海上保安本部マリンレジャー安全推進ガールに任命

海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。試験の日程については、下記のとおりです。詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁教育訓練管理官（☎03-3580-0936）までお気軽にお問い合わせください。



平成24年度採用試験日程

海上保安大学校 学生採用試験

【受付期間】〈インターネット〉平成24年8月30日～9月6日
〈郵送・持参〉平成24年9月3日～9月11日
【第一次試験】 11月3日、4日
【海上保安大学校HP】 <http://www.jcga.ac.jp/>

海上保安学校 学生採用試験

【受付期間】〈インターネット〉平成24年7月24日～8月2日
〈郵送・持参〉平成24年7月30日～8月7日
【第一次試験】 9月30日
【海上保安学校HP】 <http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/>

学生採用試験HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/saiyou/bosyu/index.html>



かいほジャーナル51号

平成24年6月29日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

海の「もしも」は118番